

半蔵門線 車両の変化

58期 A8組 K.K

半蔵門線は、営団地下鉄（今の東京メトロ）がつくった地下鉄路線である。そんな半蔵門線には、現在東京メトロの車両が三種類、乗り入れ先の東急では三種類、東武では厳密に言えば二種類の車両が走っている。ここでは、営団地下鉄（東京メトロ）が製造した車両について紹介する。

① 8000系



8000系は営団地下鉄が製造した車両である。現在は10両編成が17編成存在している。そんな8000系だが、製造開始がいつかご存知だろうか。ちなみに、半蔵門線の開業は1978年である。

正解は、1980年。しかも、最初に製造された編成は、なんと第五編成なのだ。普通は第一編成から製造されるはずなので、編成番号順に製造されていない少し珍しいケースである。ちなみに、開業時には営団地下鉄が製造した車両は存在していなかったのだ。

そのとき、営団地下鉄はどうしたのだろうか。営団地下鉄「半蔵門線開業するけど、車両どうしようか。そうだ！東急から車両を借りればいいんだ！距離も短いし（当初は渋谷から青山一丁目までの区間のみ）、そうしよう。」 実際にかこう言っていたのかどうかは不明だが、東急から車両を借りることになったらしい。

話がずれたが、8000系の話に戻す。最初に製造された8000系は8両編成が2編成と6両編成が4編成製造されたが、東急から「8両編成を増やしてくれ」と言われたので、第六編成の中間車を第三編成と第四編成に組み込んだ。こうして8両編成が4編成と6両編成が1編成の状態営業運転を開始した。その後、中間車が6両製造され、第3編成から第5

編成に組み込んだ。第6編成ももとの組成に戻った。だか、この編成だけ6両編成のままだった。そんな状態もすぐに終わり、1982年に第6編成用の中間車と第7編成から第9編成が製造された。その後しばらく8000系の製造はなかったが、1987年に10両編成が3編成と初期に製造された編成を暫定的に10両編成にするための中間車が10両製造された。ただ、この年に製造された10両編成については、半蔵門線ではなく東西線に暫定的に導入された。なぜ東西線に導入されたのか？

理由は東西線では7両編成を10両編成に組み換えをしており、そのとき、3編成足りないことがわかった。そこで営団地下鉄は「東西線用の車両が足りない。新型車両を導入したいけど、まだ開発段階だからなあ。今更旧型の組成を導入してもなあ。どうすればいいんだ？ そうだ！半蔵門線用の車両を導入してその場しのぎをしよう。」大体こんな流れで東西線に導入されることになった。ただ、帯は半蔵門線のラインカラーで導入されたので、ドアの上部に「東西線」と書かれたステッカーが貼られた。ただ、これらの編成は1989年に半蔵門線に転属した。1988年には、10両編成が1編成と8両編成が5編成と第8編成と第9編成用の中間車4両が製造された。8両編成については暫定的に10両編成にされていた編成から中間車を抜いて、これらの編成に組み込んだ。

1990年に、10両編成が1編成製造された。これで、編成単位での製造は終了した。こうして、10両編成12編成と8両編成が7編成という状態になった。このとき残っていた8両編成を10両編成にするため、1994年に中間車が14両製造された。だか、このとき登場した中間車は、これまでの車両とは大きく違っていた。まずは、これまでの車両をみてみよう。

この写真がその見た目である。



そして座席はこんなかんじである。



そして、これがこのとき登場した中間車の見た目である。



そしてこの座席はこんなかんじである。



このように、姿が大きく違うことがわかるだろう。

そして、これをもって8000系の製造は終了する。その後、2003年に東武と直通運転することになり、全編成に対して東武直通に対応させる工事を施工した。2004年から車両の更新工事を施工することになった。その工事内容は、ドア上部にLED式のスクロールが設置

して、さらにドアチャイムが設置された。さらに、ドアの窓の大型化や、モーターの更新も行われた。これによって最高速度がこれまでの 100km から 110km になった。このような内容で合計 9 編成が更新された。

2010 年からは更新内容が少し変更された。ドア上部には液晶ディスプレイが 2 画面で設置され、またドアチャイムの音色が変更された。その他、多くの編成に対して前面と側面の行き先表示がフルカラーLED に変更され、また初期に更新された編成に対して LED 式のスクロールからパットビジョンと広告用の液晶ディスプレイに交換する工事を行った。車両の更新工事は 2015 年に終了した。

これでさらに 20 年程度活躍する。…そう思われた。

2021 年より新型車両が導入されることになってしまった。現時点ではまだ 2 編成が廃車されたただけだが、これから廃車は続いていく。早めの記録を推奨する。なお、一部編成はインドネシアに譲渡されるという噂があり、今後の動向に目が離せない。

② 08 系



08 系は営団地下鉄が製造した車両である。2003 年に登場した。東武直通開始による輸送力増強をするために製造された。10 両編成が 6 編成導入された。ちなみにこれが営団地下鉄が開発した最後の新形式である。登場当時の前面と側面の行き先表示は 3 色 LED で、またドア上部にはスクロール式のものも設置されていたが、2014 年から、前面と側面の行き先表示はフルカラーLED に変更され、またドア上部は液晶ディスプレイに交換された。

そんな 08 系だが、新型車両に置き換えられて、他路線に転属するという噂があったらしいが、その可能性は低そうだ。その他、モーターを更新するという計画があり、これも今後の動向が気になる。

③ 18000 系



18000 系は東京メトロが製造している半蔵門線の新型車両である。2021 年 8 月に営業運転を開始した。現時点ではまだ 2 編成が営業運転を開始している状態で、第 3 編成も輸送されたらしい。今年度は 4 編成が導入予定であり、2025 年までに 19 編成導入予定である。これによって 8000 系は全て置き換えられる。ちなみに、これは東京メトロが製造した初めての半蔵門線用の車両でもある。

これで半蔵門線の車両紹介は終了する。コロナウイルスの影響で、計画は変更される可能性があることをわかってもらいたい。ここに書かれている内容が全て完璧に正しいとは限らないことにご理解していただきたい。

(参考 東京メトロ公式ホームページ)

写真 全て自分が撮影